

CMA+PBダブル資格者に聞く、 プライベートバンカー資格

超高齢化社会に突入した日本では、相続や事業承継といった課題に直面する富裕層・企業オーナーも多く、このような課題に取り組むプライベートバンカーの存在は、近年欠かせないものとなっています。

事業全体の流れをつかみ、その分析やビジョンの立て方、差別化の方法、上場企業の財務諸表からリスクを読み取る識別眼、アナリストレポートで駆使される会社の意図を投資家に伝えるための表現方法など、証券アナリスト的観点や経験は、企業オーナーへのコンサルティングはもちろん、あらゆる分野で生きるスキルです。

CMAでありかつPB資格を取得された会員の皆様にご登場いただき、受験の経緯やダブル資格の活用、また受験した感想等について、お話を伺います。

1. CMA受験のきっかけ

クオンツ業務での必要性からCMAを取得

大学院では確率解析を専攻していましたが、その頃から金融に興味があり、現在の証券会社に入社しました。配属されたのが現在の部署で、金融工学を駆使したデリバティブのモデル開発やプライシング業務を経て、投資戦略や金融商品を考案・開発する業務を行っています。

業務に必須となる知識を体系的に学習するために、CMAを取得して検定会員となり、さらなるレベルアップを目指して国際資格のCIIAも取得しました。

部員の大多数がCMA

投資戦略上は株式や債券はもちろん、あらゆる分野が投資対象となり、コモディティや不動産も例外ではありません。各国の税金や不動産関連の法制度も重要となるため、これらの分野をカバーする基礎知識の必要性からCFPや1級ファイナンシャル・プランニング技能士も取得しました。

このように様々な投資対象を扱うという当部の特色から、部員のバックグラウンドも多種多様ですが、CMA資格は大多数が取得しています。

開発した投資戦略の提案先の一つである運用会社の担当者はCMAであることが多く、提案する当社側も有資格者でないと、自信を持って臨めないという側面もあるかと思います。



野村証券 金融工学研究センター
クオンツ・リサーチ部
シニアクオンツアナリスト
山中 智氏
シニアPB

2. 多彩なアービトラージ機会を実現するためPB資格を取得

FP知識では対応できず、PB資格を取得

税金や不動産の基礎知識を得るべくFP資格を取得したものの、その内容は住宅ローンや保険など個人客向け知識がメインで、B to Bで業務を行う立場とは若干のギャップがありました。当部の開発した投資戦略や商品の提案先は、法人やそのオーナー、富裕層も含まれ、FP知識だけでは対応できないことも多かったからです。

レポートを書き慣れているせいか筆記試験の方が易しかった

そんな時、企業オーナーや富裕層顧客サービスに特化したPB資格試験を協会が始めることを知り、シニアPBにトライしました。コンピュータ試験では一度ではクリアできなかった単位もありましたが、逆に、難関と言われている筆記試験は一度でパスすることができました。業務上、日々様々なレポートを書いている経験が役立ったかと思います。

3. シニアPB資格を持つクオンツとして

シニアPBの取得で見えてきた、顧客ニーズの裏に隠れた背景

金融工学を駆使して有効な投資戦略を考案し、優れたパフォーマンスが期待される指数を編み出すことができたとしても、必ずしも顧客に受け入れられるとは限りません。それまでは顧客の表面的なニーズしか見えていませんでしたが、目指す目的の背景に、それぞれの顧客は何らかの事情を抱えている。そうしたことが見えてきたのは、シニアPB資格を取得し、顧客の“全体最適”、つまりビジネス、ファミリー、資産の統合化を意識するようになってからです。

リクエストの言葉通り返すだけでは、芸がない

ある特定の顧客からカスタマイズ依頼を受けることもあり、「こういった投資戦略・商品が欲しい」というリクエストを受けても、受けた言葉のままの結果を満たすものをただ提供するのでは、片手落ちで終わりがちです。顧客がなぜそのようなリクエストをしてきたか、なぜそうしたニーズが生じたかなど、背景にまで思いを巡らせた上で提案できれば、より顧客の満足度を高めることが可能となります。シニアPBの取得で、そうした素地を身につけることができたと思います。

顧客が安心して投資できる商品の開発を目指して

富裕層顧客のポートフォリオには、投資手法が不透明でコストも高いヘッジファンド型商品も多いことに驚きます。AIやビッグデータ活用が進めば、効率的で透明性の高い投資手法による低コスト商品の実現も可能となってきます。

1月に指数が公表され、3月にETN（上場投資証券）が上場を果たした「野村AIビジネス70」もその一つです。AIを活用して選んだキーワードで、ニュース・新聞・雑誌等のビッグデータ記事を検索し、その結果を基にした定量的な評価スコアを用いてAI関連70銘柄選定し、等金額投資するというものです。

常に新しいことを考え、作り出す楽しみ

ただ、AIやビッグデータ活用による自動化が進んでも、最後まで機械に置き換えることのできない分野は残ると思われます。それこそが、顧客の全体最適に目配りできるシニアPBであり、その役割は決して小さくはないと感じます。

これからも顧客が安心して投資できる、透明性が高く低コストの商品を開発し、投資機会の一層の拡大を図ることで、個人顧客・法人顧客・機関投資家・外国人投資家に資するビジネスを行っていきたいと考えています。

★「CMA+PBダブル資格者に聞く」バックナンバーは、協会ホームページ>プライベートバンカー資格>検定会員（CMA）・受講者の方からご覧いただけます。